Japan Board of Public Health and Social Medicine
JBPHSM 一般社団法人 社会医学系専門医協会
Newsletter
Vol.3 No.11
20200.Feb
社会医学系専門医協会ニュースレター

今月のコンテンツ

- 第39回医療情報学連合大会開催報告
- 第67回日本職業・災害医学会学術大会報告
- 今月のお知らせ
- （広報担当）暖冬そして新型肺炎

構成学会の総会からのご報告

第 39 回医療情報学連合大会開催報告

富山大学附属病院医療情報部
中川（なかがわ） 肇（はじめ）

2019 年 11 月 21 日から 24 日まで幕張メッセ国際会議場で第 39 回医療情報学連合大会を開催した。連合大会というネーミングで判るように、関連分野の団体・学会と共同での企画セッションが多いことが特徴である。共同企画学会として、当協会ならびに医療・病院管理学会、医療機能評価機構、日本医師会、AMED など 17 団体・学会がある。また、本大会は臨床系の学術大会と異なり、学会策定の運用要項に基づいて運営され、プログラム委員長、実行委員長が大会長の所属機関以外から選出される。各大学、病院等からプログラム委員、実行委員が指名される。発表にあたっては、簡易抄録を提出し、査読を行い、その後、CD-ROM に収録される pdf の詳細論文の作成が要求される。

写真１．会場入り口風景

特別共同企画として AMED 末松 誠 理事長が「AMED のミッション：データシェアリングによる医療分野の問題解決」とのテーマで「医療資源が限界に近づく中でのデータシェアリング、広域連携・分散統合の実現、稀少難病におけるグローバルな患者登録制度の確立」について講演された。社会医学系専門医講習としては、大久保 靖司 先生と澤 智博 先生が座長と演者をされ「専門医・指導医と資格更新について」「サブスペシャリティと医療情報学専門医について」について講演がなされた。いずれも非常に多くのご参加を頂いた。

また、当協会員の医療・病院管理学会との共同企画として、『医療 CIO を再び考える』というテーマでセッションを開催した。座長は、宮本正喜先生（医療情報学会）、勝山貴美子先生（医療・病院管理学会）に御願いした。過去の議論により他学会との協同が指摘されており、医療情報学会からは宮本 正喜 先生、合地 明 先生、岡田 美保子 先生と私が、医療・病院管理学会からは伊藤弘人先生、両学会のジョイント役として根東 義明先生、MEDIS から蜂谷 明雄 先生が登壇して「GIO(案)、病院の機能・規模に応じた医療 CIO の役割、次世代医療基盤法の元での研究を遂行する上で必要な病院内における個人情報管理の観点からの必要性、近未来の地域統合型医療情報システムにおける院外における医療 CIO の役割、両学会のジョイントの重要性」などについて議論を行った。

写真２．大会実施メンバー　左から渡邊翔太君（富山大）、辻岡和孝君（富山大）、美代賢吾先生（国立東京国際医療センター、プログラム委員長）、中川（大会長）、奥田保男先生（量子科学技術研究機構量子医学・医療部門放射線医学総合研究所、実行委員長）、片口治幸君（富山大）

その他、医療機能評価機構との共同企画として、『診療ガイドラインと医療の質・QI で目指す Data-Driven Health（今中 雄一 先生（代理））』、などの共同企画が行われた。私は同一テーマを異なった立ち位置から熱く議論することは大変有意義なことと思っており、社会医学系専門医協会傘下の学会と是非とも継続していくべきと考えている。

大会企画としては、『画像レポート見落としの対策』『医療機関を取りまく情報セキュリティの現状』『健康介護分野における IoT デバイス活用の現状と将来像』『医学医療における AU 応用』と up to date のテーマで議論がなされた。若い研究者、現場担当者からの出題も多く、一般口演演題 259 題、ポスタ演題 86 題、ハイパーデモ 5 題があった。特別講演は、ロボット外科学会理事長で心臓外科医の渡邊 剛先生、グラフ理論の専門家の田口 東 先生に御願いした。学会長講演は『診療情報は溜まるのか、貯めるのか』のテーマで行われた。延べ 4 日間で 2,900 人を超える参加者が得られた。

写真３．医療・病院管理学会との共同企画セッションは座長を勝山貴美子先生（医療・病院管理学会）、宮本正喜先生（医療情報学会）にお願いした。

＜閑話休題＞

まじめに講演を拝聴するとかなり疲れる。参加者に取っての目的の一つは、討論やロビーで多くの知己を作ることだと考えている。ランチョンは過去最高 16 の申込みがあった。また、理事長が糖尿病の専門家であることから、“低カロリー”スイーツセミナーを開催した。情報交換の場は十分に提供できたと考えている。懇親会は質素を貫き、コンベンションお薦めの「浦安囃子」とした。また、千葉、富山の知名度を上げるために、クイズ大会を開催した。問題はスマホで出題したが、一斉にアクセスしたためにサーバダウンというハプニングに見舞われた。それでも、特賞のディスニーペア入場券を獲得された方、富山の地酒、千葉のピーナツを獲得された方は幸運であろう。ただ、多くのイベントが重なり、お開きの時間帯は海浜幕張駅が大変な状態であったと聞く。大都市周辺の会場は費用面でますます開催が大変になってくると推測する。しかしながら今回の参加者には満足して頂けた内容と思っている。

構成学会の総会からのご報告

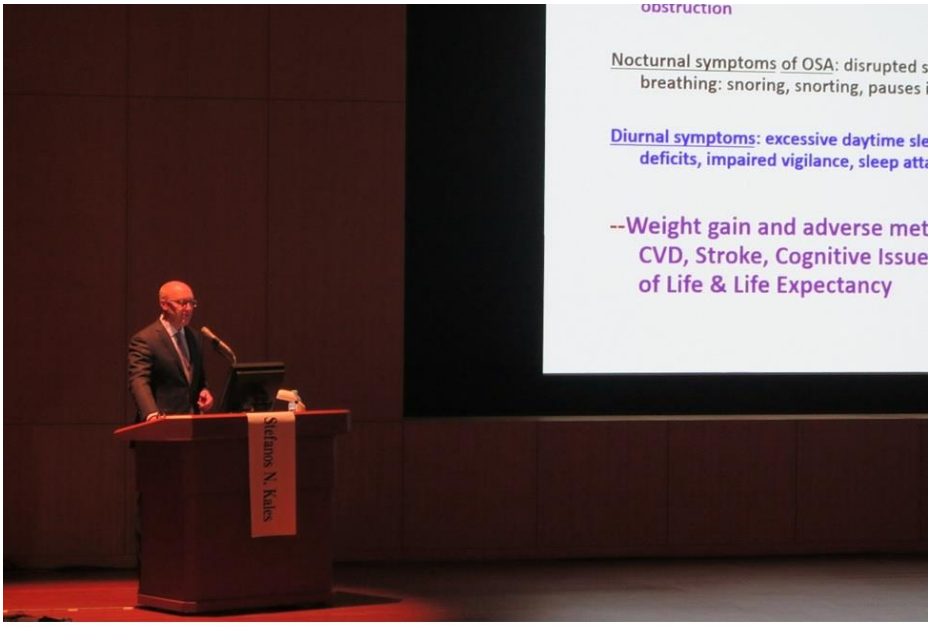
第 67 回日本職業・災害医学会学術大会報告

第 67 回日本職業・災害医学会学術大会　大会長
順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座　教授
谷川（たにがわ）　武（たけし）

第 67 回日本職業・災害医学会学術大会を、平成 31 年 11 月 9 日（土）～10 日（日）に東京都千代田区の学術総合センターにて開催する機会を得ました。これまで、私は交通事故における睡眠時無呼吸症候群の影響について研究ならびに普及啓発活動に携わってきたことから、本大会では「勤労者医療を支える新たな地平線―健康起因事故対策ならびに先進技術の活用を中心に―」をメインテーマに掲げ、近年増加傾向にある健康起因事故対策について、多角的な視点から議論を展開することを目指し、様々な分野の先生方にご講演をお願いしました。

海外招聘講演では、ハーバード大学公衆衛生大学院の Stefanos N. Kales 教授から「OSA and Fatigue as Causes of Transportation Accidents」と題し、米国の運輸業における睡眠時無呼吸による健康起因事故の実態ならびにその対策についてご講演頂きました。CPAP（Continuous Positive Airway Pressure）等の適切な治療を行っていない睡眠時無呼吸の患者では、交通事故や労災事故のリスクが増大することから、職業運転者を対象とした睡眠時無呼吸のスクリーニングは交通事故の予防に重要であることが述べられました。

特別講演では、独立行政法人労働者健康安全機構の有賀 徹 理事長から、「小規模事業場における従業員の健康管理の課題と展望」と題し、大田区で行われている登録産業医による中小零細企業の労働者の健康管理対策が紹介されました。筑波大学の山海 嘉之 教授の特別講演は、海外出張先の米国からWeb講演という形で行われ、「サイバニクス技術の職業・災害医学への展開」と題し、サイバニクス治療の現場や、労働や災害に関係する分野での取り組みとして、施設での介護支援、空港や建設、物流現場での作業支援、災害現場での復旧作業支援、消防分野でのサイバニクス技術の様々な展開と可能性について最新の事例を紹介して頂きました。東京医療保健大学の坂本 すが 副学長からは、「いつまでも生き生きと働き



海外招聘講演　Stefanos N. Kales教授（ハーバード大学公衆衛生大学院）

第67回日本職業・災害医学会学術大会事務局スタッフ

続けるために」と題し、介護職員の確保のためには定年後の看護職（プラチナナース）の活躍が期待されること、また、IoT や AI が発達する社会の中で看護職に求められるのは「患者の生きる力を引き出すこと」であることが紹介されました。厚生労働省の鈴木康裕医務技監からは、「わが国の医療政策における勤労者医療への期待」と題し、治療と就労の両立において、勤務時間の短縮、長期休暇制度や周囲の理解を深めることの必要性が述べられました。

その他、本大会では教育講演 8 題、特別シンポジウム 1 題、シンポジウム 13 題、そして 113 題の口演発表による一般演題が行われました。いずれの企画も、本大会のメインテーマである「勤労者医療を支える新たな地平線」を目指し、幅広いテーマを設けることで、多角的な視点から議論が展開できるよう工夫しました。ご登壇頂いた座長ならびに演者の先生方のおかげで、参加者から各セッションのいずれも学術的に充実したものであったと好評を得ることができました。また、各セッションには、日本医師会認定産業医研修（生涯研修）をはじめ各種認定単位が取得可能とした他、社会医学系専門医制度指導医講習会、海外勤務健康管理指導者認定制度の更新研修会が開催され、職業・災害医学に関わる多くの職種の方々が最新の知見のもと学術を研鑽できる内容となるよう心掛けました。また、本大会では初の試みとして臨床工学技士向けの自由集会を開催しました。

本大会は 2 日間で全国から 640 名の方々にご参加頂きました。充実した議論の場を提供し、職業・災害医学の発展に貢献できたことを大変嬉しく思います。最後に、本大会の開催にご尽力頂いた皆様に厚く御礼を申し上げます。

今月のお知らせ

◆基本プログラムの社会医学系 e ラーニングコンソーシアムよりの連絡

＜視聴履歴＞について

- ✓ 社会医学系専門医協会と日本公衆衛生学会で構成している「社会医学系 e ラーニングコンソーシアム」の視聴者様の視聴履歴データは、視聴から 3 年経過しないと消去しない様に修正。
- ✓ 現在のデータベースに保存され、3 年以内の視聴履歴データは、視聴履歴のページで表示される。
- ✓ 視聴者のログイン後の動画一覧で、過去 3 年以内に視聴をした動画は、視聴済み（緑マーク）と表示される。

◆関連学会の総会/学術大会のお知らせです。

第 30 回日本疫学会学術総会

開催年月日：　2020.2/20（木）-22（土）

テーマ：　疫学と隣り合う諸科学：共にさらなる発展を

代表者：　中山　健夫
（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野教授）

開催地：　京都市

会場：　京都大学　百周年時計台記念館、国際科学イノベーション棟

事務局連絡先：　＜京大事務局＞京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
＜運営事務局＞　株式会社日本旅行　西日本 MICE 営業部　内
〒530-0001 大阪市北区梅田 1-11-4 大阪駅前第 4 ビル 5 階
TEL：06-6342-0212　FAX：06-6342-0214　E-mail：jea30@nta.co.jp

開催案内 URL：　http://web.apollon.nta.co.jp/jea30/

第 25 回日本災害医学会総会・学術集会

開催年月日：　2020.2/20（木）-22（土）

テーマ：　これでいいのか、災害医療！

代表者：　会長　中山 伸一（兵庫県災害医療センター センター長）
副会長　山下 晴央（神戸赤十字病院 院長）
空地 顕一（兵庫県医師会 会長）
小谷 穣治
（神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 災害・救急医学分野 教授）

開催地：　神戸市

会場：　神戸国際会議場、神戸商工会議所、アリストンホテル神戸

事務局連絡先：　学術集会事務局　兵庫県災害医療センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 3-1
運営準備室　日本コンベンションサービス株式会社 神戸支社内
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1 神戸国際交流会館 6F

TEL：078-303-1101　E-mail：25jadm@convention.co.jp
開催案内 URL：　https://site2.convention.co.jp/25jadm/

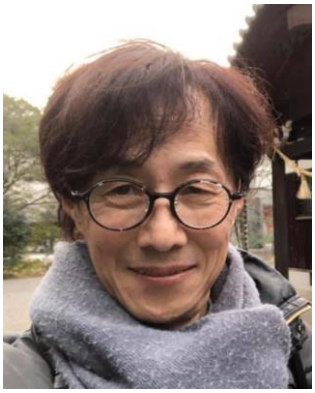
第 90 回日本衛生学会学術総会

開催年月日：　2020.3/26（木）-28（土）
テーマ：　温故創新
代表者：　坂田 清美（岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座 教授）
開催地：　盛岡市
会場：　岩手県民情報交流センター アイーナ（岩手県盛岡市）
事務局連絡先：　＜学会事務局＞岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座
〒028-3694　岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目 1 番 1 号
TEL：019-651-5111　FAX：019-908-8008
＜運営事務局＞　株式会社 プロコムインターナショナル
〒135-0063　東京都江東区有明三丁目 6 番地 11　TFT ビル東館 9 階
TEL 03-5520-8821　FAX 03-5520-8820　E-mail：jsh90@procomu.jp
開催案内 URL：　http://www.jsh90.umin.ne.jp/index.html

広報担当からあとがきに代えて

暖冬そして新型肺炎

社会医学系専門医協会
業務執行理事
大槻　剛巳



現在、1 月末でこの 2 月号の準備をしています。

何はともあれ、新型肺炎については、日々報道が刷新され、翌日にどのような情報が届くのかも分からないように感じております。このコラムを書いている時点で、既に中国本土では罹患者数が SARS を超えたとのこと、また、死者も 170 人に至り、現状で、世界では感染者も 8,000 人を超えているという

ことで、今後も予断を許さない状況です。新型コロナウイルス(Novel Coronavirus ： nCoV)による感染症ですが、国立感染症研究所感染症疫学センターより積極的疫学調査の概要なども出されています。

またSARSやMERSの時には、国内発症は無かったのですが、今回は、比較的早期に武漢から日本に来られた方が発症し、その後も、数が増えております。加えて、ヒト・ヒト感染と思われる発症者が出現し、これまでの水際対策・検疫から、更には国内での感染予防にも重点を置かなければならない状況が生じてきているようです。また武漢からの邦人の帰国のチャーター便も戻ってきて、症状の有無を問わず感染されていた方々もいらっしゃったようです。。

この検疫、感染症の広がりのシミュレーション、現場での感染予防対策、危機管理という一つひとつの場面で、おそらくは社会医学系専門医協会の、指導医・専門医の先生方が陣頭指揮を取られてらっしゃるのではないかと拝察しています。今回、潜伏期間がおそらく二週間程度ありそうで、その分、無症候のままで移動や他人との接触が多くなっているようです。また、一人の患者から何人くらいに感染してしまうか、スーパー・スプレッダーの状況なども、長めの潜伏期の関係もあって、全体像が十分に掌握できないままで、しかし、観戦情報などが日々刷新されていくという状況です。死亡者が高齢で、さらに何らかの基礎疾患を有しているという現状はあるようですが、しかし、医学雑誌に投稿された症例の胸部CTを見ても、なかなか厳しい肺炎像になっているようです。以前SARSの際に試みられた抗HIV剤が試みられているとはいえ、nCoVに対して特効的な薬剤がない現状で、対症療法でしかないこと。さらに予防法にしても特別なことはなく、でも、当たり前のことを当たり前に実行することが重要かと考えます。

さて、それはそれとして暖冬。筆者の岡山県にも県北にスキー場などがいくつかあるのですが、どこも雪不足で開店休業状況の様です。ニュース報道によると2015～2016年のシーズンもかなり雪不足だったそうです。揺れながら、でも、こういったシーズンがやってくる頻度が増していくのでしょうか。そして、それはやはり地球温暖化？温暖化に関連しても、これは「環境保健」領域であり、社会医学系専門医の中で、研究や注意喚起なども必要になってくるのかも知れません。

1月下旬に東京出張がありました。日比谷公園を訪れてみると、一本だけ白梅が咲いていました。

来月はどのような状況になっているのでしょうか？